

令和3年6月27日

佐賀県知事 山口祥義 様

佐賀市柳町4-13
認定特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク
理事長 井上龍夫

佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」による
寄附金活用実績報告書

令和2年8月6日付け県協第884号、令和2年11月4日付け県協第1459号及び令和3年2月2日付け県協第1988号により寄附金交付決定通知のあった佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」を活用して下記のとおり事業を実施したので、佐賀県ふるさと寄附金（「県民協働の地域づくり」及び「NPO等を指定した支援」）による寄附金交付要綱の規定により、関係書類を添えて報告します。

記

- 1 活用実績報告書（様式第6号 別紙1）
- 2 収支決算書（様式第6号 別紙2）

令和2年度寄附金活用実績報告書

事業名	(1) 1型糖尿病根絶に向けた研究費助成 (2) 低血糖アラート犬の養成 (3) 遺産寄付の促進 (4) 広報 (5) お礼の品送付 (6) 事業継続のための業務委託費への充当 (7) 事業継続のための人件費への充当 (8) 「コロナと戦う医療にエールを！」への寄付 (9) コロナと戦う医療者への応援基金(仮称)への積立
寄附受入額	66,000,000円
事業内容(いつ、どこで、誰が、何を、どのように実施したのかについて記載)	
<p>(1) 1型糖尿病根絶に向けた研究費助成 1型糖尿病根絶(=予防+治療+根治)を実現するために、下記2件の研究に対し助成を行いました。</p> <p>① テーマ: ウイルス糖尿病予防ワクチンの開発<予防> 研究代表者: 永淵正法佐賀大学医学部肝臓・糖尿病・内分泌内科特任教授 助成金: 2,000万円</p> <p>② テーマ: ヒト膵島を用いた膵β細胞量増大の実現<根治> 研究代表者: 白川純群馬大学生体調節研究所代謝疾患医科学分野教授 助成金: 2,000万円</p> <p>「サイエンスフォーラム2020 オンラインー根治に向けてのカウントダウン6ー」(2020年9月6日及び12日)及び研究助成金贈呈式(佐賀大学は2020年12月21日、群馬大学は2021年4月26日)を開催し、研究内容の進捗状況報告を受け、研究者へ患者・家族の想い(現場の想い)を伝えました。</p> <p>(2) 低血糖アラート犬の養成 東京医科歯科大学生体材料工学研究所三林浩二教授チームの協力を得ながら、認定特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン(広島県神石高原町)に委託して、年間を通して訓練を継続し、2頭(アニモ、アロエ)は日本初の低血糖アラート候補犬となりました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響でスウェーデンから講師(スカンディナビア・ワーキング・ドッグ研究所のイエシカ・オーベリー氏)が来日できず、認定試験が受けられない状況です。現在のところ、未来の家族と一緒に暮らし実地訓練をしながらオンラインで指導を受けています。3頭目のエフィは基礎訓練の段階です。</p> <p>(3) 遺産寄付の促進 専門家(遺贈寄附推進機構株式会社)による助言を受けて、1型糖尿病根絶に向けた研究費助成をさらに加速させるため遺産寄付に関するパンフレット作成(1万部)、セミナー開催(2021年1月22日、相続・遺言セミナー「おひとりさまのための終活」)、雑誌掲載(週刊文春WOMAN2020年12月21日、遺贈寄付特集)等に取り組みました。</p>	

(4) 広報

研究費助成財源の獲得と1型糖尿病の啓発のために本年度も3つの研究テーマ（ウイルス糖尿病予防ワクチンの開発、ヒト膵島を用いた膵β細胞量増大の実現、iPS細胞による膵臓・膵島再生）でガバメントクラウドファンディングに取り組みました。

併せて、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い経営悪化に苦しむ返礼品事業者の売上増に貢献するため、インターネット等による広報を強化しました。

(5) お礼の品の送付

年間を通して、寄付者の方々へ佐賀県の産物（伝統工芸品、農産物、海産物等）をお礼の品として送付しました。

(6) 事業継続のための業務委託費への充当

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い当法人の経営が一時的に悪化したため、WEBサイトの随時更新、毎日寄せられる相談等の役職員への振り分け、データベース整理、経理データ入力、領収書発行といった通年業務委託費の一部に充当しました。

(7) 事業継続のための人件費への充当

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い当法人の経営が一時的に悪化したため、職員人件費の一部（佐賀事務所勤務の職員人件費）に充当しました。

(8) 「コロナと戦う医療にエールを！」への寄付

糖尿病患者にとって、新型コロナウイルス感染症は重症化リスクが高く、医療継続のために、公益財団法人佐賀未来創造基金と佐賀県庁が「コロナと戦う医療にエールを！」として協働で立ち上げられた緊急支援募金へ30万円を寄付いたしました。

(9) コロナと戦う医療者への応援基金（仮称）への積立

糖尿病患者にとって、新型コロナウイルス感染症は重症化リスクが高く、医療継続のために、医療者への応援と患者に対する感染予防啓発を同時に行う「コロナと戦う医療者への応援基金」（仮称）へ積み立てを行います。

医療者への応援の形としては、佐賀県医療センター好生館、佐賀大学医学部附属病院の医療従事者を手始めに佐賀県産食材による弁当配布等を検討しています。

事業実施の成果・効果（見込み）

※提出期限までに成果・効果を示すことが困難な場合は、成果・効果の見込みを記入してください。

(1) 1型糖尿病根絶に向けた研究費助成

①ウイルス糖尿病予防ワクチンの開発＜予防＞

永淵正法佐賀大学医学部肝臓・糖尿病・内分泌内科特任教授談

膵島細胞の表面に糖尿病誘発性候補ウイルスがくっつきやすくなる物質を出すマウスを作成することに成功しましたので、まず、マウスのヒトコクサッキー B 群ウイルスによる感染成立を確認し、これまでに得ることができた複数のウイルス糖尿病感受性遺伝子を持つマウスと交配することにより、ウイルスの糖尿病誘発性を高感度に検出できる優れたモデルマウスを作成中です。今後、その有用性を注意深く詳しく検討します。

将来、糖尿病誘発性ウイルスを見つけ出し、ワクチンを開発することにより、少なくとも、見つけ出したウイルスによる1型糖尿病の発症は予防できると考えます。また、この研究計画で明らかにできていないウイルスの糖尿病誘発性証明研究に繋がれば、予防対象患者の増加も期待できます。

現在の進捗率：60%

②ヒト膵島を用いた膵β細胞量増大の実現<根治>

白川純群馬大学生体調節研究所代謝疾患医科学分野教授談

国内および国外の正式な承認を得て、ヒト膵島を用いた研究を継続しています。最近、ヒトの膵β細胞が細胞死によって減少するのを防ぐ化合物を特定しました。また、体の中で肝臓や脂肪などの他の組織が、膵β細胞の量を調節している仕組みも明らかにしつつあります。さらに幹細胞由来の膵β細胞をカプセルに入れてサルに移植する研究も開始しました。

私たちの研究では、ヒト膵島を用いて、膵β細胞の機能および量の増大を促す仕組みを明らかにし、糖尿病の根治療法の提案を目指します。特に、日本人の膵島の特性が明らかになれば、日本人の膵β細胞を効率的に増やすことのできる根治療法の開発につながります。また、生体内で膵β細胞を再生させることや、新たな膵島移植の治療法の開発につながります

現在の進捗率：25%

以上のように、1型糖尿病根絶に向けて国内の研究が進められていますが、新型コロナウイルス感染症による研究の遅れが懸念されます。しかしながら、日本の優秀な研究者の海外流出を防ぎ、日本の研究者が基礎研究から臨床まで安心して研究に取り組める環境の創造にも寄与しつつあります。

(2) 低血糖アラート犬の養成

本年度(3年目)は、2頭の患者・家族への譲渡の目途が立ち、次年度には3頭目の養成を終える見込みです。

一方で、協力者である三林浩二東京医科歯科大学生体材料工学研究所医療デバイス研究部門センサ工学分野教授からは「低血糖の際に発生する生体ガスを見つけるために低血糖アラート犬が4、5頭は必要。その際の低血糖アラート犬は、海外と同様のラブラドルやゴールデン・レトリバーが望ましい。」との意見を頂戴しています。そのための資金調達や普及に向けての課題(患者・家族へ譲渡する際の選考基準、譲渡価格等)も残っているものの、1型糖尿病患者・家族の低血糖への不安を軽減する新たな治療法の開発(低血糖のときの成分が分かれば、イヤホンのようなセンサを取り付けることで低血糖を感知)につながるものとしてスカンディナビア・ワーキング・ドッグ研究所(スウェーデン)やセントルイス大学(アメリカ)との共同研究を模索しています。

(3) 遺産寄付の促進

令和元年12月から、専門家(遺贈寄附推進機構株式会社)の助言を受けて、本格的に取り組みを開始しています。

「1型糖尿病根絶に向けた研究費助成」に活用するというメッセージは、患者・家族にはある程度は刺さると思いますが、さらに加速させるためには1型糖尿病患者・家族以外にもアピールすることが必要です。

本年度は、当法人単独ではなく、メジャーな団体と共催でセミナーを開催しましたが、新型コロナウイルスの影響で対面でのセミナーが開催できず明確な反応は見えがたい状況にあります。

しかしながら、本年度に作成した遺産寄付に関するパンフレットや雑誌掲載等で、地道に啓発を続けます。

(4) 広報

寄付者の多くが患者・家族以外の方々であり、1型糖尿病の理解・啓発に大きく寄与しています。

なお、本年度の寄付件数は、2,081件（対前年度比28.4%減）と大幅に減少したものの、継続的に応援して下さる方々は増加（リピーター率：63%）しています。

(5) お礼の品の送付

佐賀県CSO支え愛キャンペーン事業費補助金も受け、有田焼、鍋島緞通、佐賀牛（加工品を含む）、有明海産海苔、ミカン、伊万里の鶏加工品、ぶどう、梨及び嬉野茶等をお礼の品として首都圏を中心に送付し佐賀の産物をPRしたものの、寄付金の減少（対前年度比21.7%減）が響き、前年度並の売上（約1000万円）程度しか貢献できませんでした。

(6) 事業継続のための業務委託費への充当

(7) 事業継続のための人件費への充当

上記経常的経費への充当により、2020年度は経営悪化を乗り越えることができました。

(8) 「コロナと戦う医療にエールを！」への寄付

(9) コロナと戦う医療者への応援基金（仮称）への積立

「コロナと戦う医療にエールを！」への寄付時点（2020年5月）では全国的に危機意識も医療者支援気運も盛り上がっていましたが、第2波、第3波、第4波と続く中で、重症化リスクが高いと言われる患者も感染予防意識が低下しているという糖尿病専門医からの指摘を受けました。患者への感染症予防の再徹底と医療者への応援をあわせて行うことで、医療を受ける当事者として医療継続に寄与します。

医療者への応援に関しては、佐賀県産食材を活用した弁当を配布することで、コロナ禍で影響を受けている佐賀県内の事業者支援にも寄与します。

令和元年度分の報告

(1) 1型糖尿病研究基金への積立 15,000,000円

【使途】

○低血糖を劇的に減らす研究（独立行政法人国立病院機構京都医療センター糖尿病センター）に対し令和2年4月に10,000千円を助成しました。

○iPS細胞から膵臓を作る研究（東京大学医科学研究所幹細胞治療部門）に対する5,000千円は、朝日新聞社のクラウドファンディングA-portで調達できたため、バイオ人工膵島移植ジャパンプロトコール2025基金（仮称）へ積み立てることとしました。

※バイオ人工膵島移植ジャパンプロトコール2025基金（仮称）

当法人の当面のゴールは、2025年に1型糖尿病根治の一手法を確立することです。根治実現のために一番近いと言われるバイオ人工膵島移植を日本の研究者の連携によって実現するため、今後見込まれる高額な研究費助成のために積み立てます。

なお、当該基金は2021年9月に佐賀市で開催予定の「日本IDDMネットワーク25周年記念イベント—2025年1型糖尿病根治に向けて—」で発表する予定です。

【成果・効果（見込み）】

○低血糖を劇的に減らす研究＜治療＞

村田敬独立行政法人国立病院機構京都医療センター糖尿病センター医長談

本研究は2020年4月に予定していたすべての患者さんの登録が完了し、現在、データ収集が進行中です。患者さんの登録を行なっている施設は、国立病院機構京都医療センター、東海大学医学部附属病院、神戸大学医学部附属病院、徳島大学病院、国立病院機構大阪医療センター、土浦協同病院、東京女子医科大学病院、岡山済生会総合病院、埼玉医科大学病院、神田内科クリニック、慶應義塾大学病院、心臓病センター榊原病院、兵庫医科大学病院、国立病院機構小倉医療センター、国立病院機構岡山医療センター、国立病院機構三重中央医療センター、国立病院機構兵庫中央病院です。これに加えて国立循環器病研究センター、奈良県立医科大学にて統計解析と臨床研究支援を行なっています

本研究は厳密な研究計画にもとづいて行われるため、FreeStyle リブレを用いた低血糖予防の教育方法を確立し、すぐに臨床（実際の治療）に役立つ科学的なデータになると期待されています。本研究で検証された低血糖予防方法がガイドライン化されれば、日本中の1型糖尿病患者さんの低血糖を減らすのに役立つと期待されています。また、本研究の成果は英文論文で発表する予定のため、日本国内だけでなく、世界中の1型糖尿病患者さんの低血糖を減らすのに役立つことが期待されています。

現在の進捗率：80%

○バイオ人工膵島移植ジャパンプロトコール2025基金（仮称）＜根治＞

当基金により重点的に研究支援を行うことで、2025年に1型糖尿病患者に対するバイオ人工膵島移植が実現することを見込んでいます。

（2）事業調整基金への積立 13,550,000円

【使途】

○AI（人工知能）を活用した相談対応とファンドレイジングのシステム開発費として、8,000千円を東京大学発のベンチャー企業であるArithmer株式会社へ委託しました。

○残額の5,550千円は①5,000千円を「バイオ人工膵島移植ジャパンプロトコール2025基金」（仮称）へ②550千円を「コロナと戦う医療者への応援基金」（仮称）へ積み立てることとしました。

【成果・効果（見込み）】

○AI（人工知能）を活用した相談対応とファンドレイジングのシステム開発は、前例のない取り組みでもあり、未だに活用できるレベルまで達していません。特にファンドレイジングにいかすという点が不十分な状況です。令和3年度中には稼働できるよう体制を強化して取り組んでいます。

○バイオ人工膵島移植ジャパンプロトコール2025基金（仮称）による重点的研究支援を行うことで、2025年に1型糖尿病患者に対するバイオ人工膵島移植が実現することを見込んでいます。

○「コロナと戦う医療者への応援基金」（仮称）を活用して、患者への感染予防の再徹底と医療者への応援をあわせて行うことで、医療継続に寄与します。さらに、医療者へ佐賀県産食材を活用した弁当を配布することで、コロナ禍で影響を受けている佐賀県内の事業者支援にも寄与します。

平成30年度分の報告（最終報告）

(1) 1型糖尿病研究基金への積立 9,000,000円（執行保留分）

【使途】

発症早期1型糖尿病に対する免疫修飾療法の有効性と安全性に関する臨床試験（富山大学附属病院臨床研究管理センター）に対し令和2年9月に9,000千円を助成しました。

【成果・効果（見込み）】

○発症早期1型糖尿病に対する免疫修飾療法の有効性と安全性に関する臨床試験＜治療＞

中條大輔富山大学附属病院臨床研究管理センター 特命教授談

現在、目標とする患者さんの数の半数以上の患者さんに本試験に参加いただき、免疫修飾療法または経過観察を受けていただいております。一部の患者さんでは2年間の観察期間も完了しています。現時点で、重篤な副作用は発生しておらず順調かつ安全に試験を継続できています。全ての患者さんで観察期間が終了しましたら、様々なデータを収集し、効果があったのかどうかを評価する予定です。

免疫修飾療法が有効であれば、1型糖尿病発症以降も続く自己免疫による膵島の喪失を防げることが期待されます。それにより、自分のインスリン分泌を保持できれば、重度の高血糖や低血糖を起こしにくくなり生活の質（QOL）が改善されます。また、この治療コンセプトの応用は1型糖尿病の予防に繋がる可能性もあり、また細胞移植などと組み合わせれば根治を達成できることも期待されます

現在の進捗率：50%

収支決算書

事業名		(1) 1型糖尿病根絶に向けた研究費助成 (2) 低血糖アラート犬の養成 (3) 遺産寄付の促進 (4) 広報 (5) お礼の品送付 (6) 事業継続のための業務委託費への充当 (7) 事業継続のための人件費への充当 (8) 「コロナと戦う医療にエールを！」への寄付 (9) コロナと戦う医療者への応援基金(仮称)への積立		
区分		決算額(円)	備考	
収 入	佐賀県ふるさと寄附金	66,000,000		
	佐賀県CSO 支え愛 キャンペーン事業費補助金	3,400,000		
	自己資金	67,596		
	収入計	69,467,596		
支 出	(1) 1型糖尿病根絶に 向けた研究費助成	40,000,000	2件のテーマに関する研究費助成	
	(2) 低血糖アラート犬の養成	1,996,640		
	(3) 遺産寄付の促進	2,165,032		
	(4) 広報	2,678,095	ふるさとチョイス GCF 掲載料1回分を含む	
	(5) お礼の品送付	13,566,177	2020年3月実績分から2021年3月 実績分まで ・お礼の品代: 11,228,078円 ・お礼の品送料: 2,304,379円 ・振込手数料: 33,720円	
	(6) 事業継続のための 業務委託費への充当	3,953,447		
	(7) 事業継続のための 人件費への充当	4,158,205		
	(8) 「コロナと戦う医療に エールを！」への寄付	300,000		
	(9) コロナと戦う医療者への 応援基金(仮称)への積立	650,000	基金総額: 120万円 (令和3年度使用予定)	
	支出計	69,467,596		

収 支 決 算 書<付表>

平成元年度収支決算書に記載した「1型糖尿病研究基金への積立」及び「事業調整基金への積立」

事業名		(1) 1型糖尿病研究基金への積立	15,000,000円	
		(2) 事業調整基金への積立	13,550,000円	
区 分		決算額 (円)	備 考	
収 入	佐賀県ふるさと寄附金	28,550,000		
	自己資金			
		収入 計	28,550,000	
支 出	(1-1) 1型糖尿病研究基金への積立分 <支出済>	10,000,000	1型糖尿病治療に向けた1件(国立病院 機構京都医療センター)のテーマに対する 研究費助成	
	(1-2) 1型糖尿病研究基金への積立分 <執行保留中>	5,000,000	バイオ人工膵島移植ジャパンプロトコール 2025基金(仮称)への積立へ変更 ※令和3年度収支決算書で 改めて報告します。	
	(2-1) 事業調整基金への積立分 <支出済>	8,000,000	AIを活用した 相談対応とファンドレイジング	
	(2-2) 事業調整基金への積立分 <執行保留中>	5,000,000	バイオ人工膵島移植ジャパンプロトコール 2025基金(仮称)への積立へ変更 ※令和3年度収支決算書で 改めて報告します。	
	(2-3) 事業調整基金への積立分 <執行保留中>	550,000	コロナと戦う医療者への応援基金(仮称) への積立へ変更 ※令和3年度収支決算書で 改めて報告します。	
		支出 計	28,550,000	

○支出区分は、謝金、旅費、印刷製本費、消耗品費、使用料等に分けて記載してください。

経理上の区分名で記載して構いません。

○領収書等は事業終了後5年間保存してください。

収支決算書<付表>最終報告

平成 30 年度収支決算書に記載した「1 型糖尿病研究基金への積立」及び「事業調整基金への積立」

事業名		(1) 1 型糖尿病研究基金への積立 25,000,000 円 (2) 事業調整基金への積立 12,000,000 円	
区 分		決算額 (円)	備 考
収 入	佐賀県ふるさと寄附金	37,000,000	
	自己資金	1,684,000	
	収入 計	38,684,000	
支 出	(1-1) 1 型糖尿病研究基金への積立分 <前年度に報告済>	16,000,000	1 型糖尿病根絶に向けた 2 件 (佐賀大学、摂南大学) のテーマに対する研究費助成
	(1-2) 1 型糖尿病研究基金への積立分 <令和 2 年 9 月執行：今回報告>	9,000,000	1 型糖尿病根絶に向けた 1 件 (富山大学) のテーマに対する研究費助成
	(2-1) 事業調整基金への積立分 <前年度に報告済>	3,200,000	1 型糖尿病根絶に向けた 1 件 (佐賀大学) のテーマに対する研究費助成
	(2-2) 事業調整基金への積立分 <前年度に報告済>	8,000,000	A I を活用した 相談対応とファンドレイジング
	(2-3) 事業調整基金への積立分 <前年度に報告済>	2,484,000	マーケティングの強化
	支出 計	38,684,000	

○支出区分は、謝金、旅費、印刷製本費、消耗品費、使用料等に分けて記載してください。

経理上の区分名で記載して構いません。

○領収書等は事業終了後 5 年間保存してください。